

道と乗物を指導して

— 絵地図の初歩指導とごっこ学習 —

足利市立東小学校 須藤 トヨ

はじめに

- 1 移行期にある小学校一年の社会科において何を見させ、何を考えさせ、何を教え、何を覚えさせるか。漠然とした、むずかしい問題ではあるが、現場の教師が実践しながら、常に研究しなければならない大きな課題であると思う。
- 2 しかも学習方法としては、統一的で多角的な興味のある学習が進められなければならないと思う。特に小学校一年生の発達段階では、ものの見方、考え方が自己中心的で、客観性、論理性に欠けるので、工夫が必要である。
- 3 単元みちのりものの学習を通して、上記の課題を私なりに、考えながら、学習を進めてきた過程を記録したので、皆様のご指導とご批判を仰ぎたいと思う。

指導計画

1 目標

- 学区内の友達の家遊びに行くようになったこの期の児童は、いろいろな道を通るようになり、道や乗物について目を向けるようになった。そこで自分達の周囲にはいろいろな乗物や道路があり、それを利用して他の土地へ行き来しているが、その利用にあたっては、他人に迷惑をかけることが大せつであることを理解させ、これらのことが実行できるようにする。……（具体目標4）

(1)安全を守るために働いている人の指示に気をつけて、交通安全のための施設をじょうずに利用して規則正しく安全に登下校ができるようにする。

(2)乗物や道路は人や物を運ぶ大切な役割を果し、便利なものであるが、その利用のしかたは、注意が必要である。

(3)道路や橋がこわれたり乗物が通らなくなると不便なので道路工事が行なわれる。

移行措置として、新指導要領一年の内容9 内容18から更に目標を選んで時間的、空間的意識を育てることに努めた。

内容(13)から

- 学校のまわりの主な道路や建物などには、古いものと新しいものがあり、また道路工事が行なわれた新しい建物ができたりなどして、近所の様子も変わっていくことを理解させる。

内容(9)から

人々はいろいろ工夫して、土地を田や畑にしたり、道路にしたりなどして、暮らしに役立っているが、そのようすは場所によつて違っていることを理解させる。

2 時間配当……計15時間

〔絵地図づくり〕

- ①どんな道順を通して登下校しているか 1時間
- ②いろいろな道〔見学を含む〕 2 "
- ③主な建物や土地のようす〔見学〕 1 "
- ④絵地図作り 3 "

〔乗物ごっこ〕

- ①乗物ごっこの経験発表 1時間
- ②ひもを用いて電車ごっこ(校庭) 3 "
- ③玩具で自動車ごっこ(室内) 2 "
- ④町の十字路の見学 1 "
- ⑤登下校の道で交通事故の多い所 1 "

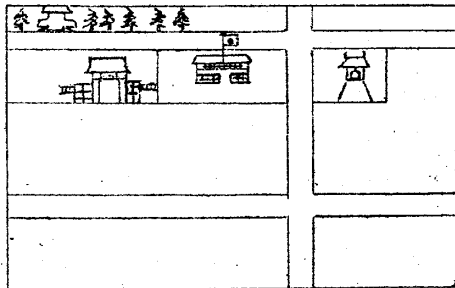
開 〔絵地図作り〕

どんな道順を通して登下校しているか。
 教師が、学校のまわりを書いた簡単な絵地図を用意した。
 位置関係は、あまりはつきりしていなかった。

模造紙大



よくわかった児童(10名位)
 登下校のようすについて話しあう。
 自分の家から学校までの略図を書く。学区内の主な
 道を記入したプリントを利用した。〔ザラ紙大〕殆
 ど書きこむことができなかつた。自分でできた児童
 (8名)



いろいろな道の見学
 何を見させ、何を考えさせたか。
 道には、補装した道。土の道。砂利道。歩道のある道。歩道のない道。広い道。狭い道。自動車や
 人の多く通る道。通らない道。雨でよくぬかる道がある。
 一年生に入学前と入学後との道の変化に気づかせた。東校の東の昭和通りの補装が延長されたことについて。
 道路工事は現在行われている所がないので前にしていた時の事を思い出させた。

広くて真直ぐな昭和通りと細くて曲がついている道とを比較させた。
 昭和通りは乗物が早く走っているのが危い。
 日様の東の道は、水たまりがあつて歩きにくい。補装された道は水たまりなどがなくて歩きよい。
 堤町蔵王様の西の道路の中央にあつた昔からの樹木は近頃とりはらわれた。一年前には、あつたこ
 を知っていた児童(35)

どうしてとりはらわれてしまったか。
 夕立ちの時、雨にたおれてしまったから。
 道の真中で邪魔だから。
 せせ邪魔になつてきたのだから。

- ④ 前には、バスがあまり通らなかつたから邪魔にならなかつたけれど今はバスがたくさん通るから邪魔になった。
- ⑤ 木の中の神様をみんなが拝むと通る人の邪魔になる。
- ⑥ おみこしをかつぐ時、ぶつかつたことがあつたから。

○ 旭町の郵便局は移り、近くに新しい建物が建てられた。わかつた児童(3名)

3 主な建物や土地のようす

通学途上や友達の家へ遊びに行つた時などに見たり、気がついたりした建物や、そのまわりを話しあつた。次の絵地図づくりでもつと深めることにした。

4 絵地図作り

- 模造紙12枚を貼り合わせた大きな絵地図を用意した。主な道路と鉄道を記入したもの教室一ぱいに開いて学習を進めた。
- 絵地図を見ながら、この前歩いて調べた道順や、気がついたことを話しあつた。
- 歩いてきた道にグループ(6名)ごとに色を塗らせた。補装した道は灰色。土の道は茶色。歩道のある道は青色。色別に塗り分けられた道は美しかつた。
- 目立つた建物を作る。
積木でその絵地図の上で作ることにした。目立つ建物の関係位置などを指摘しあう。本当にある所と同じ所にあるようにつくる事を理解させた。
作る建物をグループ(6名)毎にきめた。
①東校 ②足利学校 ③大日様 ④蔵王様 ⑤花園幼稚園 ⑥高島屋 ⑦山木屋 ⑧両毛駅
出来上つた建物を全体に見させ、考えながら立て札を建てた。位置をはつきり理解させた。
- 紙の上に作つた積木の建物ではこわれてしまう、こわれないものを作りたい。そこで画用紙でペラマ式に家を作つて貼る事にした。

5 どんな道順を通つて登下校しているか。

最初にとりあげて理解できなかつたので取り扱かつた。家から学校までの道順を多くの子供に発表させた。家のある位置をさがした。自分でさがせた児童(38名、初めザラ紙のプリントでやつた時は8名だつた)自分の家を各自画用紙に作らせて貼つた。更にバスやその他の乗物を貼り加えて一応一年の絵地図は完成した。

○ 家から学校までの道で危険な場所、交通標識のある位置も地図でわからせ、安全に登下校ができるように話しあつた。

東、西、南、北の方位にも注意させた。

問題点 …… [絵地図作り]

- 1 初めに、家から学校までの略図を描く時に殆どの児童ができたかつた。これは個人指導をしなければならぬので、現在のような児童数や設備ではむずかしい。又ザラ紙大にプリントすると、どうしても細かくなり理解できないと思つた。矢張り一定の所を見学して、学級全体の共通の話題を持ち、それを取り上げて、丁寧に指導されなければならぬと思ひ、大きな絵地図作りを、学級全体ですることにしたが、これは大変よかつた。
- 2 比較的興味のない道、建物、土地の様子などの問題も [絵地図を作るんだ] という目標が与えられたので真剣さがでてよかつた。

いろいろな道路、建物や樹木があるが、それらが人々のくらしをよくする為にすこしずつ変わつてい
 事を見つけさせる事で蔵王様の樹木と旭町の郵便局をとりあげてみたが後者は全く児童に関心がな
 く、もつとよい建物もつと適切な場所を選ぶ方がよかつた。

見学は二回にわけてやつたが、三回にやればよかつたように思つた。いろいろな道を二回〔一回目
 は昭和通りだけで道路のかわりかた、道路工事、安全に歩行する事などを学習し二回目でまわりの
 道を歩いていろいろ問題をみつけ、三回目で主な建物や樹木の変わり方〕教師も児童も疲れてしま
 つてはいけない。見学の目標を欲張らないで単純にする為にも。

全児童 46 名をもれなく作業に参加させる事はどこの学年でも大切な事であるが、地図の大きさも
 横道紙 12 枚大で適當だつた。

空間意識を育てる 為に

本当にある所と同じ所にあるように作ろうと積木の建物を作つたり、本当の道と同じように色を塗
 ろうと、補装道路、土の道、砂利の道、歩道と色別に塗り分けさせた点はこの期の児童の心理にあ
 つていた。情緒的で夢の世界を大きな紙の上に出現させる事ができた。立体的なものから次第に平
 面的なものへの読図指導の原則にあわせて、積木の建物から→厚紙の建物に→更にそれをねせて折
 る。実際と地図との一致は無理なく進められ理解も容易であつた。

一年で学校のまわり、二年で学校区域。とすると、すこし範囲が広がつたように思つたが、学校か
 ら家までの道で誰も自分の家のある所がほしい。そこでできあがつたものは学区内のものになつて
 しまつた。その点は話し合いの学習でよかつたのか。しかし児童の真剣さは、自分の家があるとい
 う点で余程違つていたと思つた。自分の家の位置も大体で、二年でもつと正しくなればよいと思つ
 た。はしわたしであればよい。

分まで学習したこと

①教室の机を書いて覚えよう。

②自分の教室はどこだろう。

〔4月 社会 学校とわたしたちの教室

〔4月 社会 わたしたちのきょうしつ〕

5月 算数 何例何番目、右と左〕

○自分の教室

教室の坐席表をプリントして与え

○便所

自分の席を色で染めさせた。でき

○廊下

なかつた児童〔6名〕

○水のみ場

こ く ぼ ん

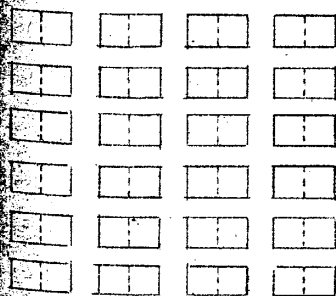
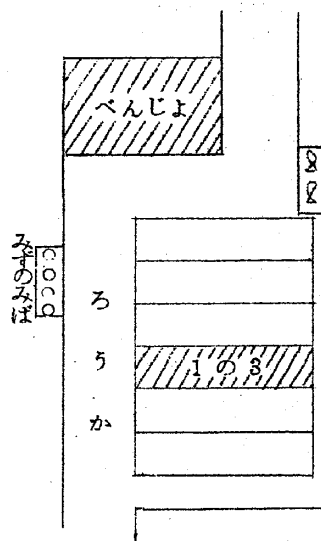
プリントして与えて

それぞれ色をぬらせ

た

わからなかつた児童

(5名)



②学校の運動場には、どんな遊び道具があるだろう。

[6月 社会 学校のきまり]

庭にあるのと同じ所に書いてみよう。

興味はあるが遊び道具表現方法がわからないので児童に位置を考えさせながら教師が書いた。

[ぶらんこ、すべり台、しーそうー、じゃんぐる … 等]

展 開 …… [のりものごっこ]

1 乗物ごっこの経験を発表

○どんな乗物にのった事があるか。どんな気持がしたか。

汽車に乗った(46)

電車に乗った(45)

自動車に乗った(43)

船に乗った(24)

オートバイに乗った(28)

飛行機に乗った(4)

早い。らくだ。好きだ。うんと乗りたい。

○次時の予告(ごっこ遊び)

2 ひもを用いて電車ごっこ。(校庭)

○ねらい

(イ)乗物利用の仕方をわからせる。

(ロ)駅という大きな施設が組織化されて、仕事を分担し、それらが安全正確に、早く人や物を送るために努力している。

○第一次のごっこ

①役割を決めた。[学級を4グループにして]

駅や電車内で働いている人をあげさせた。[運転手、車掌、駅長、駅員、お客]方法はグループにまかせた。じゃんけんできめた。[2グループ]勢力のある児童の任命。[2グループ]

②使う道具を考えた。笛、帽子、紐

③グループ毎に自由に走った。

○第二次のごっこ

①更に道具の必要性を感じ次のものが加えられた。線路、停留所4、駅の立札4、電車名を記したふた、駅員の腕章。

②方法は4グループ合わさって、4台の電車が円形の一本線路を次々と走った。駅名は講堂駅、ぶらんこ駅、会礼台駅、まり駅とし4ヶ所とした。

③発車、停車、お客の乗り降り、駅員の交通整理の学習が児童相互に行なわれた。

○第三次のごっこ

①更に加えられたことは、踏切り、踏切り番。…[2カ所]腕時計。

②駅員が時間たがわず着いたか発車したかをたしかめて次の駅に電話する。乗物の中で自分勝手をするとなを車掌がする。これ等の学習がつけ加えられた。

3 玩具で自動車ごっこ …… [室内]

○ねらい

①乗物にはいろいろな種類があり人や物を運んでいる。

②乗物を利用すると大変便利である。

③交通安全の為にいろいろな施設や人が働いている。

○第一次のごっこ

①各自持ちよった乗物の玩具から種類をわからせた。

②走っている所によって、陸[線路、道]水、空の乗物とわけさせた。

③自由に走らせて遊ぶ。

二次のごっこ

①道路、線路を作る話し合いをした。

②駅〔積木〕 駐車場〔積木〕 乗場〔立札〕 十字路交通標識〔厚紙〕 交通整理のおまわりさん〔人形〕 お客（小さい積木）を作った。

③人を運ぶバス。しようとしないように気をつける。交通標識を守る。おまわりさんの手信号を守る。ひかれないようにする。などの学習が行なわれた。

十字路の見学

④よりよいごっこへ発展する為に昭和通りと大通りの十字路を見学した。

三次のごっこ

①トラックの積荷が加えられた。

②積荷する人。運ぶトラックと運転手。おろす人。町のお店屋。

③〔荷物は1cm立方の木〕

④教室の片隅を炭作り場とし教室の片隅を町の店として乗物でたくさん荷物を運ぶ学習が行われた。

⑤下校の道で交通事故の多い所

⑥地図作りの所でも話し合っていたので、交通事故の事例を二、三あげて、どうすればよいか考えさせて発表させた。

課題点 ……〔のりものごっこ〕

①家庭での電車ごっこも室内での自動車ごっこも、進め方として、素朴なものから複雑なものへ。造作に行なうごっこから整ったごっこへ、という方法をとった。無造作なごっこの時は、目標にむかって学習が進められていない気がしたが、問題は多く起きてくるので、それを全員の問題として取りあげて、解決のきっかけを作ればよいと思つた。

②一次→第二次→第三次へといく過程には十分な話し合いが何時も持たれたわけであるが、全員が学習に参加できたか、話し合いの場が適切かどうか疑問であつた。

③目標以外のもの ○つきとばす ○おもちゃをかさない。○きつぶをうらない…等の問題が多くあつたが、だんだん整ったごっこになつてからなくなつてきた。

④他人のやつている事を見させ、何を何の為にやつているか考えさせたつもりであるが、徹底しなかつた。

⑤具作りは殆ど家庭学習になつてしまつたが、果してこれでよいか。想像と現実の区別が明瞭でない時期なのでできるだけ簡単なものでよかつたのではないか。

⑥ごっこを通して、人や施設の働きを理解し、その利用のしかたがわかり、道徳的な考え方が培われつつあるが、むりおしつけに〔こうすべきだ〕となつた点があつた。

⑦物の単元を一貫してごっこで進めたが果たして目標が達せられたか。児童の興味は確かにあり、何度やつてもあきる事を知らなかつた。目を輝かせ、体に汗して、本気で体当たりしていつか？自分の作文を通して考えたい。

文

例

みんながなになるかきめました。みんながうんてんしゆになりたいといつたので、じやんけんがきめました。そしたらうんてんしゆは、いなべくん、ぼくは、しやしよ、のりごちやんはきつぶをきる人、むらたくんがえきちようになりました。 [すず木 きさみ]

のりちやんがきつぶうりでした。わたしがぶらんこえきといつたら、たかさきという、きつぶをうりました。わたしは、おりられなくてこまつてしまいました。 [みかみ けいこ]

おきやくさんをのせました。ぎゆうぎゆうづめになりました。ゆりかちやんと、わたしは、ころんでしまいました。ゆりかちやんは、ないてしまいました。せんせいみんなをよんてきき

ました。いなべくんが「まんいんのときはのせないように」といいました。あといつかやりました。こんどは先生が「じょうずにできました」とおっしゃいました。〔つかじたかこ〕
○はる山くんが、ぼくの白バイにわざと、ぶつかりました。

みちのとおりにとおらないからです。先生ははる山くんに「どうしてぶつかるのです。」といいました。おもしろいからです。といいました。先生は「人は右、くるまは左」といいました。

〔やぎはしひろゆき〕

○ぼくは、きつぷうりです。はじめはうんとおきやくがきたけれど、きなくなりました。おきやくをむりにおろそうとしたら、けんかになりました。

それからおきやくさんを、ならばせました。〔大つか こうじ〕

○しのべくんと、てつちやんと、くまがいくんと、ぼくと、でんしやごつこのどうぐをつくりました。かんばんとぼうしと、うでへまくものです。きつぷとふえもよいしました。でんしやごつこのことをかんがえて、あまりよくねむれませんでした。〔いたばしまさみ〕

○わたしのじどうしや、すみやさんに、にもつをとりについて、まちにおきにいきます。中のくんの、ところから、しのべくんのほうに はこんでいきます。〔やぎはしくんのは、にもつがくんとはいるね〕と先生が、いいました。〔山下 きみえ〕

○ぼくのトラックは、はじめねむっていました。まちへいつてちよつとしごとをして、かえろうとしたら、げん田くんのハイヤーがものすごいスピードではしつてきたから、おいかけました。ちよつとようどこうばんのところで、やぎはしくんの白バイにたのんで、おいかけました。つかまりませんでした。〔しばさきたつお〕

△単元そのもののねらいよりも、遊びの中の問題が、非常に多くとりあげられていた。(道徳的事項)

△施設や働く人々、利用のしかたなどについては、理解した児童が多かった。

△乗物は正確に早く人や物を運ぶというねらいは、充分達せられないで、ごつこの中で陥没してしまつた。

お わ り に

社会科で見させ、考えさせ、教えるものは、何かという問題を、絵地図作りと、ごつこあそびと、低学年の独自の学習方法を通して指導してきたわけであつたが、児童はどこまでうけとめてくれたか甚だ疑問であるが、一年生なりに体でうけとめてくれれば幸だと思ふ。系統学習が提唱されている今、ごつこ学習のあり方も更に検討されなければならないと思ふ。

講

評

毛野中学校 刑 部 富 也

須藤先生の実践記録を読ませて戴きまして大変勉強させられました。低学年社会科指導の実践記をまとめることは、容易なようではなかなかに困難なことであるのに、よくやつて下さいました。同僚の人たちの大きな参考になることと存じます。

の実践記録のうち「絵地図作り」の指導は実際に授業を参観させて戴いておるので、記録をよみながら、あの大きい、時には良い児であり、時にはやんちゃな児等とその中にとけこんでいる先生が眼に映ずるような気がしました。参観した実際の授業も記録による計画、展開も大変よかったです。問題点として実践後の反省が行なわれていくことも尊いことであると子供達のために感謝します。次に二、三項目に別けて感想を記します。

指導計画(目標)について、

児童の発達段階を常に考慮しつつ、また新旧学習指導要領をよく比較研究され、30年版学習指導要領にもとづきながら88年版学習指導要領を参考として(移行期であるから)目標を明確にして生活経験を重んじ、問題解決的学習をもとにしなが、しかも「はいまわ計社会科」といわれるようなものから脱却して、系統性を重んじ、積みかさねを考えられた指導計画は立派なものであると思う。すなわち空間意識を育てること(88年版内容9)時間的意識をもたせること(88年版内容13)が地理的学習、歴史的学习の基礎であることに留意されて、じっくり取りくまれた点は非常にけっこうであると思う。

指導の展開について、

「絵地図作り」の実際指導において教室いっばいに広げた地図に、道路を色別けし、積木で主な建物をつくり(後で厚紙の建物に、最後にねせて折る)通学区域の絵地図を作りあげる。

その間46名の児童をよく全員参加させて空間意識をさずけていった取り扱い方は効果的であつた。

「いろいろな道の見学」小学校低学年において空間観念を育てていくにはできるだけ身体を動かして学習することに重点をおかなければならない。—自分の身体を動かして直接経験したことを基礎として学習を展開させていくことを考えねばならないので、目標を与えては歩かせ、目標を与えては歩かせていったところはよい。反省にもあるようにもつと時間をかけると一層効果的であつたろう。また見学後の話し合いで空間意識や時間的意識や観念の養成につとめられたことがほんの一部分きり記録されていないので、実際に授業を参観されなかつた方にはわからないと思います。実践記録としては山になるところは、特に細かに記録していただくことがよいでしょう。

2にのべた観点から「どんな道順を通つて登下校しているか」については、配当時間をもつと増して、意識的に歩かせたり、道順を発表させたりして各人に学校に来る道順を描図させるように努められた方がよくなかつたか、直接学校までが困難であると思われたら、自分の家から近所の友だちの家まで、次に学校までといったようにしたら大部分の児童が描図出来ると思う(描図の範囲はせまいところから順次拡大していくのがよい)

絵地図の範囲が学校区域になつたが、これは取り扱いの中心がやはり家から学校まで、学校の近所であつたのだから差し支えないと思う。2年生になつたら、遠近の距離観念、方位の観念が加わつて、より確かなとらえ方をするようになり、中学年に進んで自分達の住む町や村や郷土などについての学習によつて一段と成長していくのですから。

「乗物ごっこ」で一貫されてやられた「乗物」については、反省にもあげられているように問題をのこしているようですが、「ごっこ」としては計画も指導もよいと思いますが、「ごっこ」では養えない、学習できない、部分の学習が問題ですね、「町の十字路の見学」…(配当時間1時間)がどのように行なわれ、その後の話し合いがどのように行なわれたかが記録がありませんので不明なのですが、このへんの取り扱いによつて補うことができたのではないかと思います。